

土砂 災害

ハザードマップ

土砂災害ハザードマップには、大雨や地震により土砂災害のおそれのある区域を示しています。また、避難場所をはじめ避難に役立つ情報を示していますので御活用ください。

令和7年3月発行



区域の最新情報は神奈川県土砂災害情報ポータルを御確認ください。

発行 川崎市 まちづくり局指導部宅地企画指導課 川崎市川崎区宮本町1番地 TEL.044-200-3035

我が家の防災メモ

ハザードマップを使って我が家防災メモを完成させましょう!!

自宅を見つけましょう

裏面の地図で自宅が土砂災害警戒区域等に入っているか確認しましょう。



区域に入っていない



土砂災害警戒区域



土砂災害特別警戒区域

避難場所や避難経路を確認しましょう

状況に応じた避難方法を確認しましょう。



安全な場所への避難



近隣の高い建物等への避難



屋内の安全な場所への避難

避難方法に応じて、避難場所と経路を確認しましょう。

安全な場所への避難

近隣の高い建物等への避難

屋内の安全な場所への避難

非常持出品を確認しましょう

非常持出品の保管場所は、家族のみんなで共有しましょう。

保管場所

家族やご近所で災害時の対応を考えましょう

家族やご近所での約束事を記入しましょう。

家族の約束事

ご近所での約束事

がけ崩れから身をまもる

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)

土砂災害の種類には、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)、土石流、地すべりの3つの現象があります。ほとんどの土砂災害は、長雨や大雨、地震によって発生します。長雨や大雨の場合、大量の水分が地中にしみ込み、その量が多いほど斜面の土の抵抗力が弱くなり、災害発生のおそれが多くなります。

なお、川崎市で発生するおそれのある土砂災害は急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)です。

がけ崩れは、大雨や台風等により、がけに水が浸透することでがけの強度が低下することによって、がけが突然崩れ落ちる現象です。崩れた土砂は、がけの高さ以上に離れた場所まで到達することがあります。前兆現象を確認するなど、危険を感じたら、速やかに避難することが大切です。

前兆現象

- 小石がパラパラ落ちてくる
- 斜面に割れ目ができる
- 斜面から水が湧き出す

※これらの現象が継続することで、がけの安定性が低下し、がけ崩れの発生の危険性は高まってきます。



気象情報や避難に関する情報の流れを確認しよう!

災害の危険性が高まるとき、「土砂災害警戒区域」に「避難情報」を発令します!

<避難情報等>

警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生又は直迫している状況です。 命を守るために最善の行動をとりましょう。	緊急安全確保 (川崎市が発令)
警戒レベル4	危険な場所から全員避難しましょう。 避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内により安全な場所に避難しましょう。	避難指示 (川崎市が発令)
警戒レベル3	避難に時間を要する人(ご高齢の方、体の不自由な方、乳幼児等)とその支援者は危険な場所から避難しましょう。 その他の人は、避難の準備を整えましょう。	高齢者等避難 (川崎市が発令)
警戒レベル2	避難に備え、土砂災害ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	大雨注意報 等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

<防災気象情報>

警戒レベル相当情報(例)
警戒レベル5相当情報 大雨特別警報(土砂災害)
警戒レベル4相当情報 土砂災害警戒情報 等
警戒レベル3相当情報 大雨警報(土砂災害) 等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

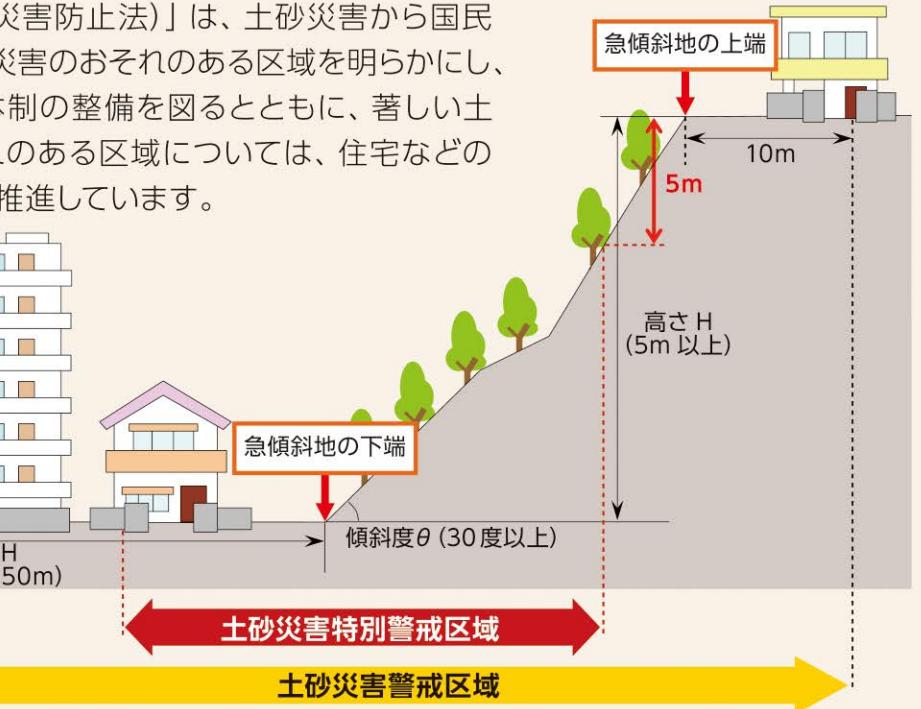
避難情報等は令和3年9月時点の情報です。

避難情報等が配信される「メールニュースかわさき」に登録しましょう。[メールニュースかわさき] [検索]

*避難に関する情報が発令されていない状況でも、危険を感じた場合には迷わず避難行動を開始してください。

土砂災害防止法とは

「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(通称: 土砂災害防止法)」は、土砂災害から国民の生命を守るために、土砂災害のおそれのある区域を明らかにし、危険の周知、警戒避難体制の整備を図るとともに、著しい土砂災害が発生するおそれのある区域については、住宅などの建築制限といった対策を推進しています。



土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

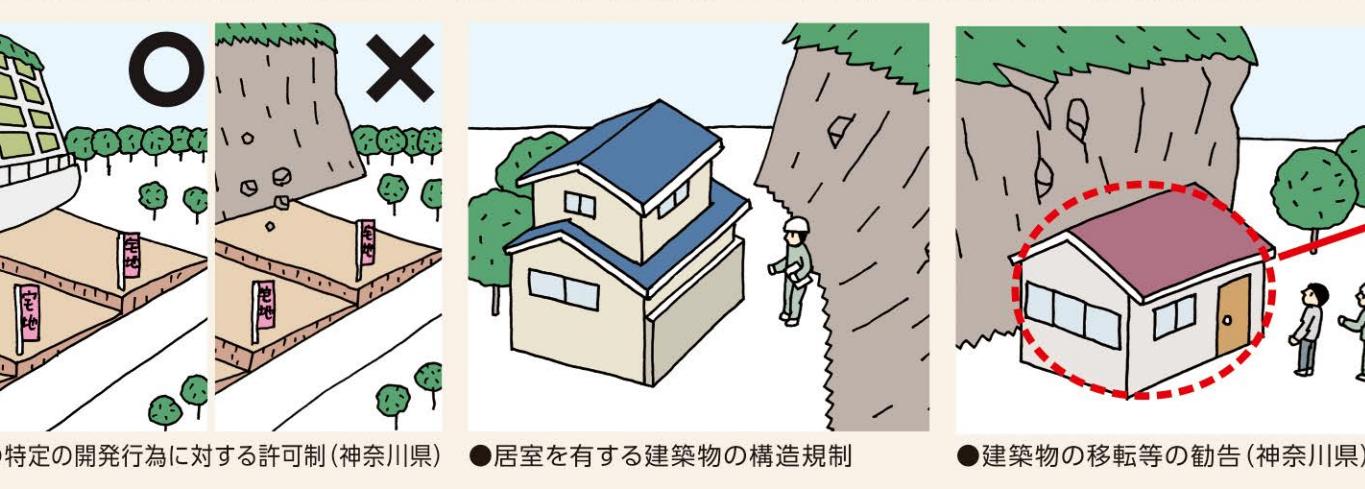
急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、住民等の生命又は身体に危害が生じるおそれがあると認められる区域であり、危険の周知、警戒避難体制の整備が行われます。

土砂災害警戒区域の指定基準

- 傾斜度が30度以上で高さが5メートル以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離が10メートル以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍(50メートルを超える場合は50メートル)以内の区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

急傾斜地の崩壊等が発生した場合に、建築物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれがあると認められる区域で、特定の開発行為に対する許可制、建築物の構造規制等が行われます。



土砂災害特別警戒区域の指定基準

急傾斜地の崩壊等に伴う土石等の移動等により建築物に作用する力の大きさが、通常の建築物が土石等の移動等に対して住民の生命又は身体に著しい危害が生じるおそれのある損壊を生じることなく耐えることのできる力を上回る区域。



ハザードマップの使い方

1 自宅を見つけましょう

自宅が土砂災害警戒区域等に入っていないか確認しましょう。



2 避難する場所を確認しましょう

土砂災害からの避難方法を確認しましょう。立ち退き避難が必要な場合を想定して、適切な避難先を確認し、大きく印をつけるなどして災害時に備えましょう。



3 安全な避難経路を決めましょう

災害時には迷子にならないよう、安全な避難経路を複数決めましょう。



4 実際に避難経路を歩いてみましょう

家族やご近所の方と一緒に歩いて、危険な箇所がある場合は、避難経路を見直しましょう。



5 家族で災害時の対応を話し合いましょう

大雨やがけ崩れの際の行動について、家族で話し合い、災害時の約束事を決めましょう。



6 学校やご近所で考えましょう

学校やご近所で、災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。高齢者など、避難に援助が必要と思われる方についても、みんなでできることを考え、避難の際に協力しましょう。



7 我が家の防災メモを完成させましょう

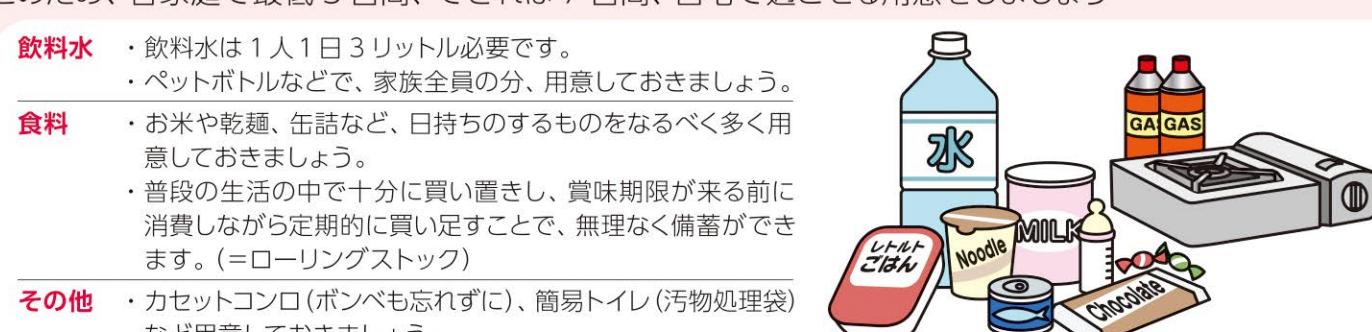


日頃の備え

家庭備蓄の充実

災害時には、ライフライン機能の低下など都市機能の低下が考えられます。

このため、各家庭で最低3日間、できれば7日間、自宅で過ごせる用意をしましょう。



非常持出品チェックリスト

水・食料	<input type="checkbox"/> 飲料水 <input type="checkbox"/> 携行食・非常食 *ビスケット・缶詰など
医療・衛生	<input type="checkbox"/> 服用している薬 <input type="checkbox"/> 救急医療品 <input type="checkbox"/> 生理用品 <input type="checkbox"/> 歯ブラシ・口腔ケア用品
貴重品	<input type="checkbox"/> 現金 <input type="checkbox"/> 口座 <input type="checkbox"/> 健康保険証・預金通帳 *コピー可
安全対策	<input type="checkbox"/> ヘルメット・防災ずきん <input type="checkbox"/> 厚底の靴 <input type="checkbox"/> 軍手
道具類	<input type="checkbox"/> 携帯電話・充電器 <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ <input type="checkbox"/> 懐中電灯 <input type="checkbox"/> 電池 <input type="checkbox"/> 時計 <input type="checkbox"/> 携帯カイロ <input type="checkbox"/> ロープ <input type="checkbox"/> ライター・マッチ <input type="checkbox"/> 缶切り <input type="checkbox"/> ナイフ <input type="checkbox"/> 入れ歯・眼鏡など
衣類	<input type="checkbox"/> 上着(防寒着)・下着・靴下 <input type="checkbox"/> 携帯レンゴート <input type="checkbox"/> スリッパ
生活用品	<input type="checkbox"/> ウエットティッシュ・ティッシュ <input type="checkbox"/> タオル <input type="checkbox"/> ゴミ袋・ボリ袋
感染症対策	<input type="checkbox"/> 体温計 <input type="checkbox"/> アルコール消毒液 <input type="checkbox"/> マスク

がけの防災対策

自身の所有する宅地で災害が生じないように維持保全することは所有者等の義務になります。そのためには普段からがけの状態をチェックし、適切に対策を実施することが大切です。

早期に対策を講じることで災害を事前に抑制することができます。右の図を参考に、自身の所有する宅地についてチェックしてください。



川崎市防災ポータルサイト(川崎市ホームページから)

市内の災害に関する緊急情報、避難情報などを掲載するほか、日頃からの備えに役立つ情報を紹介しています。

かわさき防災アプリ